



第 29 号 2022/3/12

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

ポーランド国境 音楽で希望を

ポーランド国境の検問所でピアノ演奏
【2022年3月12日】



ウクライナからの避難民が通過するポーランド南東部の国境の検問所で、イタリア人の男性が、音楽を通じて希望を持ってもらおうとピアノを演奏しました。

ドイツに住むイタリア人のダビデ・マルテッロさんは、シリア内戦で多くの難民がドイツに逃れたときや、パリでテロ事件が起きた際になどに現地を訪ね、ピアノの音色を届けてきました。

マルテッロさんは今回、ウクライナからの避難民が多いポーランドの各地を訪れ、11日には、南東部にある国境の町、メディカの検問所近くに移動式のピアノを持ち込み、ビリー・ジョエルさんの「ピアノ・マン」や、ジョン・レノンさんの「イマジン」などを演奏しました。

避難してきた人たちは足を止めて聞き入り、動画を撮影したり、拍手したりしていました。

マルテッロさんは「避難してきた人たちに希望を与え、元気になって欲しいと思いながら演奏しました。ようやく安全を手に入れられたと思うので、少しでも前を向いて欲しいです」と話していました。

NHK NEWS WEB より



ドイツに住むイタリア人のダビデ・マルテッロさん音楽を通じて世界に希望をとポーランドとウクライナの国境沿いにピアノを持ち運び演奏



ポーランド南東部の国境の検問所ウクライナから避難してきた人々が足を止めてその音色にかすかな笑顔を見せている

今現在もロシアによるウクライナ侵攻が続いています。そのような状況下において世界で起きていることに対して向き合い、そして自分にできることを考え実行したダビデさんの行動はたくさんの人に勇気と希望を与えるものとなりました。

一人一人ができることはとても小さなことでウクライナの人のために直接私たちができることは少ないかもしれませんが。しかし私たち自身がそれを考え、話し合うことが大切です。今、私たちが友達と遊んだり、学校で勉強したり、本を読んだり、家族でお出かけをしたりするそんな当たり前の日常がとてもかけがえのないことで大切なことだと感じました。この当たり前の幸せがこれからも続いていくことを願いながらもこのような状況下を他人事ではなく、自分たちが生活をしている一部なのだという思いで子どもたちと一緒に考えていきたいと思っています。(四本)